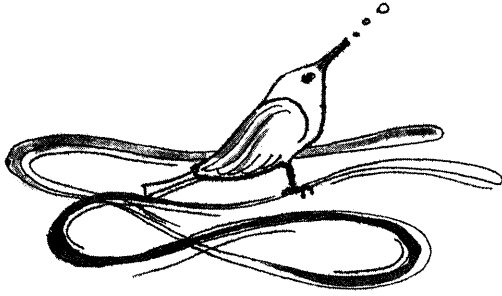


リズム遊び

——戸倉ハルの作品を通して——



吉成 啓子

はじめに

「現代の子どもたちは、情緒・情感に乏しい。」「思いやりが欠けている。」などという会話を耳にすることが多くなってきた。

子どもたちが、自然の遊びの中で歌を唄い、音楽を聞き、その感動をからだで表わすことができるように導くことができ、「リズム遊び」の楽しさを味わえることができるならば、豊かな情緒・情感が培われ、養われていくことは必定のことである。その大事な時期は幼児期にある。幼児期の「リズム遊び」が重要な役割をもっていることは、説くまでもないことである。それをあたえることのでき

るのは指導者（教師・保育者）なのである。それらを行おうとする時、まず、どのようにしむけていったら良いのか。など、さまざまな問題につきあたってしまうことであろう。本稿では、問題点の解明をねらいとして、戸倉ハルの作品を指針とし、その考察を進めていくこととする。

戸倉ハル先生（一八九六―一九六八）

まず、先生はダンスについてどのように考えておられたのか、その考えの根底にあるものを知りたいと思う。

先生の作品は、幼児から大学生に至る幅広い範囲を対象として、数多くのものが残されている。特に、幼児、児童のためのものが多い。

先生が、子どものためのダンスの研究に取り組み、その本格的な研究をはじめたのは、旧東京女子高等師範学校（現在、お茶の水女子大学）の研究科に入った時からということが出来る。研究のスタートは、大正十三年に旧府立第六高等女学校（現在、東京都立三田高等学校）

の教師になった時からであった。大正十四年七月、日本幼稚園協会主催の講習会で、ご自身の創作作品として、幼児の遊戯「みなさん、あした、また」「しゃぼんだま」「ゆうやけこやけ」などを発表したと記録されている。これらは現在も親しまれている傑作である。

先生は、この頃より幼児のダンスに情熱を傾けられていたのであった。その後、昭和八年、旧府立第六高等女学校から旧女子高等師範学校に着任され、ますます、研究は深められていた。

先生の考えが具体的に示されたのは、昭和十一年六月発布の第二次改正学校体操教授要目であった。その時先生は、要目調査委員として、この要目の教材選定にあたられた。従来の要目中の唱歌遊戯および行進遊戯は、小学校では僅かに十三種であったが、この要目では、それぞれが十八種ずつに増加され、多彩な教材が盛りこまれたのであった。更に関連して同年七月に発布された学校体操教授指針では、次のようにその目的を明示された。

「唱歌遊戯及行進遊戯は、音楽の伴う全身運動によ

り、身体の発育と健康とを助長し、容姿を端正にし、動作を優美ならしめ、兼て快活温雅な精神を養い、以て心身ノ調和的発達を図るを目的とする。」また、

「唱歌遊戯及行進遊戯は、特に女子の体育運動として適切であることが最も大きな特徴であつて、身体の発育、健康の増進を図るに効果があることは勿論であるが、これと共に、快活優雅な感情を陶冶することにおいて独得の特徴があるものである。」と、その特徴を明らかに示された。この考え方は先生の基本的な考えであり、その後、少々作品の傾向に変化がみられても考え方の根底にあるものは変わることがなかったのである。子どもの情操陶冶には、音楽は欠くことのできないものであるという強い信念のもとに、音楽に合わせて踊ることの楽しさを経験する場をあたえることにより、運動面のみでなく心情面をも培い育むことができる」と力説されたのである。「幼稚園に於ける唱歌遊戯」〔師範大学講座体育〕第十一卷（昭和十一年三月）には、幼稚園の唱歌遊戯の目的、その位置づけを明らかにされ、具体的に

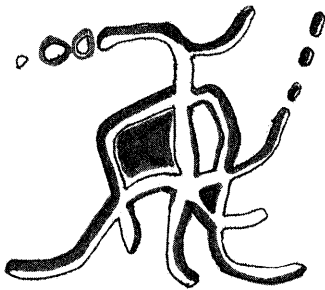
教材選択上の注意や指導の方法、指導案例などを記述されている。

#### 戸倉ハルの指導観

(一) 子どもの自主性を大切に

次頁参照の資料(1)は、先生が発表された幼稚園に於ける唱歌遊戯創作への指導案である。教師の巧みな誘導が、子どもとの言葉のやりとりにかがわれ、むりなく自然に子どもの表現が引き出されていることがわかる。

教師は、題材について子どもの関心を高めるための導



## 資料(1) 幼稚園に於ける唱歌遊戯創作への指導案

(戸倉ハル「幼稚園に於ける唱歌遊戯 P21～29」から)

### 一、お花畑

- 一、題材 お花畑
- 二、時 五月の暖かい日
- 三、所 校庭の緑濃く生えしげつてゐるクローバーの上

### 四、指導の実際

教 今は春の真最中で、野も山もいろ～な草花が咲いてみて大変綺麗ですね。今日は皆さんめい～お好きなお花になつて遊びませう。○○さん、あなたの一番好きなお花は何んですか。

児 チューリップ

教 ○○さんあなたは

児 バラ

教 ○○さん、○○さん……

児 カーネーション、タンポポ……

いろ～の答えの中でチューリップが一番多かつた。

教 それでは○○さんはチューリップ ○○さんはバラ ○○さんはカーネーション ○○さんはタンポポ……とめい～自分の好きな花になつていた、きませう。

この時子供は思ひ～に自分の好きな花になつて喜びいさんである。大変綺麗なお花になりました。その綺麗な花はすぐさう大きくなつてお花になるのではなく、小さい、細かい種子を畑に播いて、可愛がつて育て、やるのですと、播種から生長して花が咲くところまでを話す。

さあ、これから種を播きますよ。

種を播く様子をする。

さあ、一番先にチューリップ、バラ～

児 チューリップになった児はうづくまる。

教 次はカーネーション。

児 今度はカーネーションになつた児がうづくまる。

教 次はタンポポ その次はバラ……

児 タンポポ バラ……と順々にうづくまる。

教 これで播き終わりました。こんどはその上に軟かい土を冠ませませう。

児 子供は皆一斉にうづくまつてちつとも動かない。

教 お水をやりませう。ジャブ～

児 ムク～動く。

教 暖かいお日様がボカ～あたるので種子が急に大きくなつて芽を出しさうになりました。

児 子供は盛んに動き出してだん～頭を抬てくる。

教 元気な青々とした芽が出ました。

児 子供は全く立ち上る。

教 花が咲くやうに大きくなりました。蕾が出来たものもあります。いつの間にか綺麗なお花が咲き初めました。

児 子供らは、いろ～工夫を凝して花を咲かせます。体前で、肩先で、頭上で、大きいのもあれば小さい可愛らしいものもある。皆両手を合せることは同じである。

教 あんまり綺麗なので、蝶々が見つけて飛んで来ました。皆さん、こんどは蝶々になつてごらんさい。

児 誰れも両手を側にあげ、軽く上下に振りながら前へ歩く。

教 この時、鳥の飛ぶやうな表現が多いので、蝶々はもつと静かに可愛らしく舞ふのですといつて蝶々の舞を共同研究する。一人づつやらせる。それを共同して批評する。大分よくなつて静かにのどかに舞ふ姿をさせる。

児 皆な軽く舞ふやうになつて可愛らし。

入の工夫が大切である。興味をもたせるための身近な話題を捜し話をする。そのことについての観察をする。絵を画いたり歌を唄ったり、さまざまな方向から導入を行いながら題材の要点の指導を行う。など、指導者として大切なことは、子どもたちが自由に動きを創りだし自然な表現をするように、助言をする位にとどめ、創造の余地を子どもの領分として残しておくことを忘れてはならない。また、あくまでも本質をこわさぬよう、個性を伸ばすよう、子どもの中から動きを引き出すことが肝要であることを説かれている。「教育とは教えるものではなく、子どもの持つ、すくすく伸びる本性を啓培して、それをうまく引き出すことに真の生命があり価値がある。」という先生の言葉は、指導観そのものといえる。

「子どもの自主性を大切に」という指導観は、当時発刊されていた『幼児の教育』にのせられた倉橋先生との会話にも裏つけされている。

#### 倉橋惣三氏の言葉

「遊戯は、もっとと素朴で簡単に一刀彫のようでありた

い。もっとと自由表現の余地をあらしめたい」

これに対して戸倉先生は、次のように答えられた。

先生のお言葉は、実にあの素朴な子ども心そのものを表現するようにと、指示せられたものとして、私の胸に喰い入った。——中略——遊戯の動作なるものは、誰が作りだすよりも子どもらの自由表現に待つべきであると思う。——中略——皆様も子ども達に教えるという事よりも、子ども達にらくらくと自由に表現させる志向を起こさせる事こそよき指導者、よき保母であると思う。子ども達の前で踊るのも遊ぶのも、つまりは、子ども達にその志向を湧出させる様のほんの手引きとして示されるにすぎない。その心を常に忘れてはならないと思う。

(『幼児の教育』——幼児の心にかへりて——)

こうした指導が行われた時こそ、「生きた指導」といえるのではないだろうか。

(二) 指導者も子どもになりきる

指導者が子どもと同じ立場になることは、子どもの気持ちを理解し、子どもが「そのものになりきる」という

しゃぼんだま

ゆかいに ♩ = 72

野口雨情 作詞  
中山晋平 作曲

mf

mf

1.しゃぼんだま とんだ やねますで とんだ  
2.しゃぼんだま きえた やねますで きえた

やねまめで とんぐに こわれで きえた  
うねまめで とんぐに こわれで きえた

かぜかぜ ふく なしゃぼんだま とぼそ

資料(2) (「子どものうたとリズム遊び・花の巻」より)

## しゃぼんだま

### 歌い方について

1. 全体として、明るく軽快に歌いましょう。
2. この歌曲は、大正9年に発行された「金の船」に載せられてから、ずっと幼児に親しまれて歌われてきました。今では「ドドドレ」と歌われていますが、その当時は、「ソドドレ」と歌われていました。しゃぼん玉をとばして遊んでいる歌で、大きなしゃぼん玉、小さなしゃぼん玉がふわふわあがっていく様子がよく歌われています。
3. 前奏・後奏は、特に軽快にリズムカルにひきましょ。 「かぜかぜふくな」のところは、ピアノの伴奏がありません。ことばをはっきり楽しく歌いましょう。
4. 曲について  
調子…ニ長調 拍子… $\frac{2}{4}$ 拍子  
音域…ニ～ニ (8度) 速度…♩=72  
なおこの作曲は大正2年になっています。

### あそび

**準備** しゃぼん玉になる子どもを全体のきぐらいに決め、自由体形。

#### 方法

前奏 4小節

そのまま聞く。

1. しゃぼんだま とんだ やねまで とんだ やねまで とんで こわれて きえた

しゃぼん玉になる子どもは両手を頭上に伸ばしてまわるとり、好きなほうに走り、最後に柱、机、いすのところで両手を降ろして、しゃぼん玉が消えた様子をする。他の子どもは、左手に石けん水のはいた器を持った様子をして、右手の五指を動かし、しゃぼん玉を飛ばす様子を4回する。

2. しゃぼんだま きえた とばずに きえた うまれて すぐに こわれて きえた

しゃぼん玉の子どもは前のまま待っている。他の子どもは、前の動作を繰り返している。

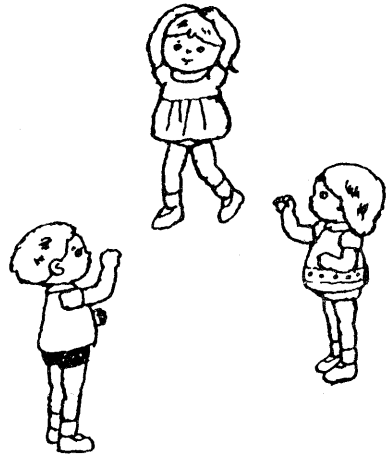
かぜかぜ ふくな しゃぼんだま とばせ  
しゃぼん玉の子どもも他の子どもも、風になって好きなほうに走る。

後奏 4小節

好きなところに止まり、しゃぼん玉を作って飛ばす様子をする。

#### 指導にあたって

- しゃぼん玉について話し合いをする。
- しゃぼん玉になる子ども、作って飛ばす子どもの表現は、それぞれくふうさせる。
- しゃぼん玉が消えるところは自由にさせる。もし途中で他の人とぶつかったら、すぐ消えるようにしてもよい。



ことへのよい助言者になれることである。子どもになり  
きることによって、自然な表現を引き出すことができる  
ということと言を強くして述べておられたのである。

戸倉ハルの表現創作について

## (一) 題材

題材選択には子どもの生活経験を重要視すること。経験をしたか、しないかがまず大切になってくる。自然環境の中で、生活の中で、興味を十分に引くことができる題材であるかなどを念頭において選択すべきであるとし、題材の種類……自然界の現象・動物・植物・人物などがあげられている。

## (二) 曲

「子どもの情操陶冶には音楽がもっともよい」という信念に基づいて、曲には細心の注意をはらわれた。

ダンスの曲には、詩のあるものと曲だけのものがあるが、先生は好んで歌曲（詩のある曲）を用いられた。

選曲は文部省唱歌、わらべうた、童謡と広範囲にわたっ

ている。

「美しい詩と美しい旋律に恵まれた歌曲は、こどものダンスを創るよい要因となる」と述べられている通り、よき理解者であった小林つや江氏をはじめ、服部正、渡辺浦人、小谷肇氏などの作曲家に作曲を依頼し、創作の曲となさった。また、先生ご自身の作詞に作曲を依頼して、模倣遊びやリズム遊びなどを数多く創られている。

歌詞は、短いもの。リズムカルな言葉のもの。呼びかけのもの。母音の多いもの。動物や動くものから取材したもの。子どもの生活をうたにしたもの。などを選び、曲は、音域の狭いもの（一〜六度位）。四〜八〜十二小節ぐらいの短い曲。拍子は二拍子型。繰り返しの簡単なリズムが良い。など、創作にあたり、子どもの歌曲にとって大切な要点を詳しくあげられている。

選曲されたものを子どもにあたえる時は、まず理解しやすいリズムを選び、拍子を子どもに十分に感得させる。次にリズムに言葉をつけてみる。次にメロディーをつけ、心に感じたものをからだで表わしてみる。つまり



「心にあるものをからだで作文するのだ」と述べられている。(子どものうたとリズムあそび『雪月花』より要約)

(三) 動き

動きはできるだけ大きく、のびのびと全身運動ができるように、簡単な動作で、子ども達が何度でもくり返して動きたくるように振りつけられた。大きな動作をすることで、子ども達の活動欲求が満たされ、楽しみをみい出すことができるようにと心を配られたのである。

先生の表現法は、音楽の分節に合わせて動作が振りつけられており、子どもが表現しやすいように創られ、

「そのものになりきる」そのものの心になる」

ことを強調され、こまかい表現の工夫より、のびのびと無邪気に行うようにと指導されている。

「詩の心、曲の想を生かして、リズムに重点をおき、一刀彫のような単純で技巧のないもので、しかも子どもの生活の中にすぐとけこむように」との言葉通りの作品を残されたのである。

資料(3)

まがりかど

倉橋惣三 作詞

室崎琴月 作曲

たろうさんがかけてきた じろうさんもかけてきた  
まがりかどで ぶつかって

たろうさんごめんなさい じろうさんごめんなさい  
ごめんなさいが ぶつかって  
りようほう いっしょに はっはっは

あめふり

北原白秋 作詞

中山晋平 作曲

あめあめ ふれふれ かあさんが  
じゃのめで おむかい うれしいな

ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン

※1〜5番までのそれぞれに、思いやりの心が含まれている。

先生の創作に関するすべてがもりこまれた作品の具体例として、「しゃぼんだま」(資料(2))をあげ、考察を進めてみよう。

しゃぼんだまの心が大きな動作であらわされており、十分に子どもの自由表現の余地も残されて、のびのびと動作ができるように創作されている。更に詩の心からだにあらわすことによって、子どもの心情にふれ、やさしい心を育むことができるのである。

『思いやりの心』が歌の中に十分に含まれ、培うことのできる作品の中の代表的なものとしては、「まがりかど」「あめふり」があげられる。(歌詞資料(3))

子どもの生活指導として大切な暖かい思いやりの心が歌曲にも、動きにもあふれている作品である。

その他、子どもへの先生の思いのすべてが含まれている数多い作品の中から特に心に残るものいくつかをあげてみると、はと時計。かにさん。あり。あまだればったん。コンコンこ山。おまつり。やまのともたち。とびはねる。ポタンのぼうや。たきび。まつぼっくり。どん

ぐりころころ。ぞうさん。はる。ことりのおはなし。などがあ

作品のいずれをとりあげてみても、その中に、子どもの心の奥深くに残るもの、うたの心を子どもに植えつけることができるもの、うたの心と子どもの心が結びつくもの、言葉のおもしろさや副詞(擬音語・擬態語など)の多い楽しいもの、大人と子どもが話し合うようにして一緒に遊べるもの、など、選曲や動きに細かい心配りがある。作品ひとつひとつに先生の動かぬ信念を考察することができる。

### 結び

先生の作品は大小あわせると七〇〇余残されているが、「愛らしい子どもたちを通して、私の乏しい心を温かく再現していただけることは、この上もないよろこびであります……」と記されている通り、子ども達に喜ばれることをひたすら願ひ、また子ども達が喜ぶ作品であることを確信しておられたのである。

現代の子どもたちは、テレビマンガのテーマソングや  
コーン・シャルソング、など速いリズムが強調された音楽  
にとりまかれてゐる。しかし、それらに対するリズム感  
覚の素晴らしきは眼をみはるものがある。良いものは育  
てたい、しかし、その中であつてやさしい感情・感動す  
る心、その心を表わすことのできる子ども達に育みた  
い。そのためにも私達は、子どもの心の中にやさしい心  
の種を蒔き、それを育てる栄養をあたえることのできる  
教師・保育者でありたいと願うものである。

先生の偉業への感動とともに、良い作品はいつまでも  
残し、その根底にある先生の指導観を学び、伝える課題  
があることを深く深く自覚するものである。

#### 参考引用文献

一、多和はる…「戸倉ハルの児童舞踊」…「体育の科学」第

25巻7号…杏林書院…昭和50年

二、戸倉ハル・小林つや江…子どものうたとあそび第一集…

不昧堂…昭和32年

三、戸倉ハル・小林つや江…子どものうたとあそび第二集…

不昧堂…昭和33年

四、六、戸倉ハル・小林つや江…子どものうたとリズムあそ

び「雪月花」の巻…ひかりのくに出版…昭和42年（雪の

巻のみ昭和43年）

七、戸倉ハル…「幼稚園における唱歌遊戯」…「師範大学講

座体育」第11巻…建文館…昭和11年

八、倉橋惣三…「幼児の舞踊」…「幼児の教育」第25巻6号

…フレibel館…昭和8年

九、戸倉ハル…「幼児の心にかへりて」…「幼児の教育」第

33巻8・9号…フレibel館…昭和8年

十、女性体育史研究会…近代日本女性体育史…日本体育社…

昭和56年

（白百合女子大学）

日本音楽著作権協会（出）許諾第88158871801